

講義名	異文化間コミュニケーション論			
担当教員	中川 典子			
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要
異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、異文化に接する機会が益々増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な演習活動を実施することで、多様な文化的背景と価値観をもつ人々との共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。授業は異文化間コミュニケーションの理論に関する講義と演習の二つのアプローチから成る。このコースは本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という目標を、異文化間コミュニケーションの理論と実践を通して達成することを主眼としている。

到達目標
(1) 自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養うことができる。
(2) 同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養うことができる。
(3) 様々な授業内活動を通じて、他者と協力することの重要性を理解し、協調性を養うことができる。
(4) 他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養うことができる。
(5) クラスメイトたちを前に自分の意見を表現できるコミュニケーション力を養うことができる。
(6) グローバルな視点で物事を考える力を養うことができる。
(7) 上記を踏まえ、本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という到達目標を達成する。*

提出課題
毎回、授業に関する「学びと気づきの振り返りシート」を執筆、提出する。登壇の授業の準備として、適宜、その他の課題に取り組み提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
受講生が執筆した「学びと気づきの振り返りシート」を匿名で教員が紹介し、コメントする。その他の課題がある場合は、提出された内容を統括し、授業中に解説する。

評価の基準
(1) 課題（ジャーナル、その他）（60％）
(2) 最終レポート試験（40％）

履修にあたっての注意・助言他
(1) コースの評価は、上記の評価項目を総合して行うが、どちらかでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
(2) 講師が入室したときに教室にいない場合は連絡者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
(3) 授業開始後、15分以上の遅刻は欠席となる。3回連続で1回欠席、5回以上、欠席した場合は単位を取得できない。
*履修に関する詳細は、第1回目の授業で知らせるので、必ず出席してください。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献
*レジメとハンドアウト資料を適宜配布する。
(参考文献)
・L.サモイェル、R.E.ポーター、N.C.ジェイン(1993)西田司ほか訳
・異文化コミュニケーション入門 華文社
・八代京子ほか(1998)『異文化トレーニング』三修社
・石井晴ほか(2001)『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣ブックス
・古田晴隆修(2001)『異文化コミュニケーション・新・国際人への条件』有斐閣選書
・古田晴ほか(2001)『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣双書

授業計画
*回 授業計画
1 コースガイダンス：履修に際しての重要事項の説明とミニ講義（異文化間コミュニケーション発展の経緯）
2 コミュニケーションとは（1）
3 コミュニケーションとは（2）
4 コミュニケーションとは（3）
5 コミュニケーションとは（4）
6 文化とは（1）
7 文化とは（2）
8 文化とは（3）
9 文化とは（4）
10 文化とは（5）
11 知覚とカテゴリー化
12 マスメディアとステレオタイプ（1）
13 マスメディアとステレオタイプ（2）
14 偏見と文化摩擦（1）
15 偏見と文化摩擦（2）
授業内容は授業の進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		○ エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
*予習：前回の授業の復習、および、その週の課題に取り組む。（約2時間）
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）*

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
異文化間コミュニケーションの理論をグローバル社会で起きている問題に適用し、考察することにより、知識を知恵に転換することができる論理的思考力を身につけ、多様な視点の獲得により新しい価値を生み出す創造力を醸成する。また、国内外の人たちと円滑なコミュニケーションをとることができる素質を身につけることにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は商学部生に求められる変わりなく経営進修の動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができるための基礎知識の獲得。経済学部生に求められる人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成業の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる力の育成、そして、人間社会学部生に求められる現業社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てるという理念の達成に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
前回の授業に関する「振り返りシート」を授業中に教員が紹介し、コメントする。授業内容、その他に関する質問は随時、授業中に時間を設けて受け付け回答する。

実務経験の有無及び活用

備考
このコースは一方向的講義のクラスではないため、受講生の真摯、かつ、積極的な参加を期待します。課題の提出は非常に重要です。その他、授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行います。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席してください。新型コロナウイルスの感染状況によって授業形態が変更になる可能性があります。大学および担当教員からの連絡は、必ず確認してください。